

むきぼんだ花だよ

7月

2017. 7. 1





“木札を
かけかえよう！！”



植物解説

1	クマノミズキ (ミズキ科)	春先に枝を切ると樹液がしたたるのでついた名。直立した幹に、枝が1年ごとに輪生状につき、階段状になるので、樹形が美しい。ミズキによく似ている。花は白色で、葉の上にたくさん咲かせるので、遠くからでもよく目立つ。葉のつき方は対生。よく似たミズキは互生で区別がつく。	
2	カクレミノ (ウゴギ科)	花期6～7月。海岸近くの常緑樹林にはえる常緑小高木。葉は、革質で光沢あり、若い木では3～5裂するが、古い木や開花枝では菱状広卵形。古くなった葉は褐色から黄色になり美しい。実は秋に黒く熟す。	樹に触れることによりかぶれることがある。樹皮を傷つけると白汁が出て固まるが、これを集めて黄漆と呼び家具の塗料に使用する。葉の形が身を隠す蓑に似ているので名づけられた。
3	タブノキ (クスノキ科)	常緑高木。高さ25m。果実は赤から黒く熟す。	地元ではコガノキ。散孔材で木目がおとなしく、心材は赤褐色。家具や船材、楽器などに使う。島根県松江町では紙漉きのコウソの繊維をほぐす板を打ち板といい、タブノキを使う。葉や樹皮を粉にしたものをタブコといい、水を加えて練香の材料にする。青谷上寺地遺跡で出土した結合式ヤスの柄は、タブノキで作られていた。
4	アカメガシワ (トウダイグサ科)	花期7月。落葉高木。成長は速く、樹林の空いた場所、伐採跡地などに生えるが、寿命は短い。春、赤い芽がでるので目立つ。雌雄異株。7月頃に花をつける。	和名は赤芽樹で、赤芽と古代人が食べ物をこの葉に載せたことに由来している。葉が大きいので、古来食物を盛る葉として代表的なものである。新芽は、茹でて水にさらし、煮びたし、油いため、おひたし、和え物に。葉、種子は、赤色の占領にも使われる。またこの葉に食物をのせ、神前に供える風習があることから、葉盛葉という名もある。妻木晩田遺跡洞ノ原地区で種子が出土。
5	コブシ (モクレン科)	花期3～5月。落葉高木。高さ10m。花の時、葉が開いている。標高300～400m以下に生える。ヤマアラギ、コブシジギ、ヤマモクシなどの別名がある。秋には曲がりくねった拳(こぶし)状の果実を結ぶことからこの名前が生れたという。	タムシバ同様、太陽と反対側に芽が向くので、方位を知ることができる(北向き)。つぼみは、タムシバと同様、薬用酒に。東北地方では、農作業開始の目安にされ、「田打ち桜」「芋植え花」など。つぼみは漢方で蓄膿症や鼻炎などの処方に使われる。
6	ノグレミ (クルミ科)	東海道以西、四国、九州の暖帯高木である。	果実はタンニンが多く黄色染料に、根皮や葉で魚網の染料に用いられた。
7	エゴノキ (エゴノキ科)	花期4～5月。雑木林に生える。幹は暗茶褐色、平滑で特徴的。花は白く、5弁。果実は秋に熟す。	エゴノキは果皮をなめるとのどを刺激し「えぐい」のでつけられたという。方言に古名で知左(チサ)の花ともいう。果実にはエゴサニボンが含まれていて、新鮮な果実を洗濯石鹸の変わりにしたり、麻酔効果があるのですりつぶして川に流し、魚取りに使ったりする。果実は熟すると果皮が裂け、種子がむき出しになる。この種子はヤマガラが好んで食べる。
8	クリ (ブナ科)	梅雨の頃、木全体を白いベールで包むようにたくさんの花をつける。1つの花は長さ15cmほどで、葉腋から尾状に伸びる。その花穂におびただしい数の雄花をつける。雄花は独特の甘い香り。雌花は普通3個が集まって、後にイガになる総包に包まれた花穂の根本につく。それはまるで緑色の星のよう。それを雄花がとりまくようにつく。	
9	ミツバアケビ (アケビ科)	花期4～5月。落葉のツル植物。葉は3小葉。雌雄異株。花は暗赤褐色。果実は10月に熟し、中から白い果肉が現れる。熟すと貝が開くようにポツカリと口を開くので「開け実」。	甘味のある果実を食用にしたり、若芽をゆでてお浸しや漬物にする。若芽や若葉をアブラにしてもおいしい。
10	カラスザンショウ (ミカン科)	花期7～8月。海岸近くの湿った場所にはえる。幹にトゲがある。果実は茶褐色に熟し、花序ごとに垂れ下がる。	実は食用ではなく、胃痛にきく漢方薬。材や白で柔らかく、昔は下駄などに使われた。洞ノ原で種子が多数出土。
11	イワガラミ (ユキノシタ科)	落葉性の木で、鶴から木根を出して樹や岩によじのぼるためイワガラミの名がついた。よく花序の似ているツルアジサイと混同されるが、イワガラミは花のがく片が一枚である。	
12	コナラ (ブナ科)	花期4～5月。落葉高木。高さ15m。樹皮は古くなると縦に割れる。葉はミズナラに似るが鋸歯は小さく、葉柄は1～2mmあり、無柄のミズナラと区別できる。ミズナラよりも低地に生育。	薪、木炭など燃料として使われた。火力があり、伐採しても切り株から芽をだす。太いものは、ミズナラ同様、家具にすることもできるが、ミズナラより硬い。

★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第1土曜日午前9時30分～正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」